



梅若研能会

一月公演

【大會】三世 梅若万三郎 (前島写真店)

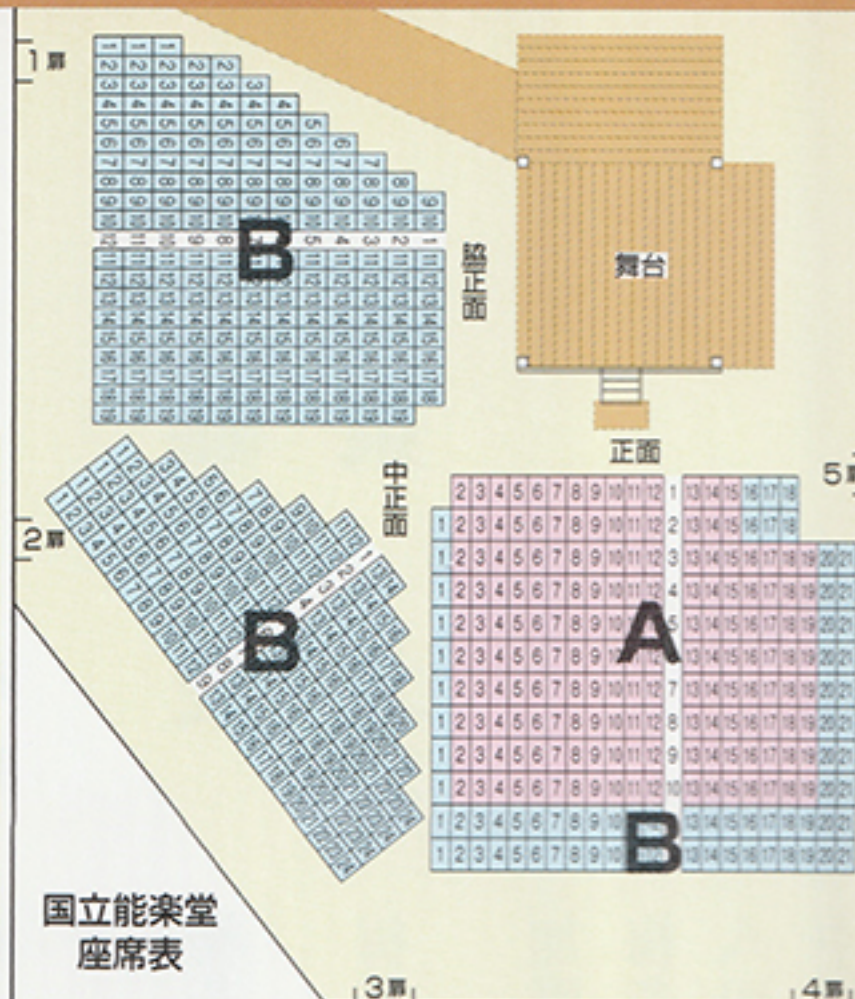
令和6年1月20日(土) 午後1時始 (開場12時)
於 国立能楽堂

National Noh Theater 4-18-1, Sendagaya, Shibuya-ku, Tokyo
Sunday 20 January 2024 Start 13:00 (door open 12:00)

国立能楽堂

東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1
☎ 03 (3423) 1331

- JR千駄ヶ谷駅 徒歩5分
- 大江戸線・国立競技場駅 徒歩5分
- 副都心線・北参道駅 徒歩7分



入場料 (全席指定)

指定席 A 7,000 円

指定席 B 6,000 円

※学生席 (要学生証) 各席 3,000 円引き

お問い合わせ・お申し込み

e+ (イープラス) <https://eplus.jp/ath/word/69495>

カンフェティ TEL0120(240)540 (平H10:00-18:00)

<http://www.confetti-web.com/umeken>

公益財団法人 梅若研能会

〒151-0066 渋谷区西原1-4-2 TEL 03 (3466) 3041

〈メールアドレス〉 staff@umewakakennohkai.com

〈ホームページ〉 <http://www.umewakakennohkai.com>

YouTube 演目の見どころ解説動画を公開中!

フェイスブックはじめました! 公演情報更新中!

令和6年梅若研能会 全五公演開催日のお知らせ

一月公演	1月20日(土)	国立能楽堂
四月公演	4月6日(土)	宝生能楽堂
六月公演	6月9日(日)	観世能楽堂
十月橘香会	10月14日(月・祝)	国立能楽堂
十二月公演	12月19日(木)	観世能楽堂



【羽衣】三世 梅若万三郎 (前島写真店)

能「羽衣 彩色之伝」、「大會」みどころ講座

12月17日(日) 14:00 ~ 15:00
於・梅若万三郎家能舞台 (渋谷区西原1-4-2)

受講料 1,000 円 (※研能会入場券購入者は無料)

講師 「羽衣 彩色之伝」 中村 裕 (なかむら ひろし)
「大會」 古室 知也 (こむろ ともや)

梅若研能会 一月例会

令和六年一月二十日(土)午後一時始
(午後十二時開場)

於国立能楽堂

素謡 神歌

(二時)



翁 梅若 紀長
千歳 梅若 志長

地謡
長谷川晴彦
遠田 修
伊藤 嘉章
加藤 真悟

休憩二十分

狂言 三本柱

(二時四十五分頃)

シテ(果報者) 野村 万作
アド(太郎冠者) 中村 修一
小アド(次郎冠者) 内藤 連
小アド(三郎冠者) 飯田 豪

後見 岡 聡史

仕舞

難波 梅若 紀佳
東 梅若 紀長
北キリ

地謡

加野 鉄音
梅若 泰志
八田 達弥
中村 政裕

能 大會

(三時二十分頃)



前シテ(山伏) 古室 知也
後シテ(天狗) 萩原 郁也
ツレ(帝釈天) 野口 能弘
ワキ(比叡山ノ僧正) 高野 和憲
アイ(蔵人ノ木葉天狗)

笛 梶宅 聡
小鼓 曾和伊喜夫
大鼓 柿原 孝則
太鼓 林 雄一郎

後見 加藤 真悟

地謡
梅若 志長 長谷川晴彦
梅若 紀佳 八田 達弥
梅若 泰志 青木 一郎
遠田 修 伊藤 嘉章

(終演予定 四時二十分頃)

能 羽衣

(二時十五分頃)



衣 彩色之伝

シテ(天人) 中村 裕
ワキ(漁夫白龍) 殿田 謙吉
ツレ(漁夫) 野口 琢弘
ワキツレ(漁夫) 小林 克都

後見 八田 達弥
大鼓 桜井 均
小鼓 柿原 弘和
藤田 清水 次郎

地謡
梅若 千音世 長谷川晴彦
中村 政裕 伊藤 嘉章
青木 健一 加藤 真悟
梅若 泰志 遠田 修

能 羽衣 彩色之伝 (はごろもさいしきのでん)

春の朝、三保の松原に住む漁師・白龍は、仲間と釣りに出た折に、松の枝に掛かった美しい衣を見つけます。家宝にするため持ち帰ろうとした白龍に、天女が現れて声をかけ、その羽衣を返して欲しいと頼みます。白龍(はくりょう)は、はじめ聞き入れず返そうとしませんでした、「それがないと、天に帰れない。」と悲しむ天女の姿に心を動かされ、天女の舞を見せてもらう代わりに、衣を返すことにします。羽衣を着た天女は、月宮の様子を表す舞いなどを見せ、さらには春の三保の松原を賛美しながら舞い続け、やがて彼方の富士山へ舞い上がり、霞にまぎれて消えていきました。



【三本柱】野村万作 (オクムラ写真館)

狂言 三本柱

狂言 三本柱 (さんほんのはしら)

主人が太郎・次郎・三郎の三人の冠者たちに、家を新築するための柱を山まで取りに行かせる。ただし、条件があって、三本の柱を三人の者が二本ずつ持って帰らなければならない。山に着いた三人は、試行錯誤のうえ、主人の出した謎を解くことができ、賑やかに囃子物を謡いながら帰宅して……。

能 大會 (だいえ)

鳶に化けた大天狗は柿の木から落ち、京童たちに捕らえられ、命を奪われそうになりました。そこに比叡山の僧正が通ります。僧正は鳶の命を取ろうとする童らに殺生を犯してはならないと説きます。しかし童らは鳶を解放しません。僧正は自身の持ち物との交換を提案して鳶は解放されるのでした。能はこの後日譚を中心とします。

比叡山の僧正(ワキ)のもとに山伏(前シテ)が尋ねてきます。山伏は命を助けられた御礼に望みを何でも叶えてくれると言います。僧正は釈迦の靈鷲山での説法を目の当たりにしたいと希望します。お安い御用と引き受けた山伏は「決して信心を起こしてはいけない」と念を押し、姿を消します(中入)。この山伏こそ大天狗でした。

そこに大天狗に仕える木の葉天狗(アイ)が現れ、大天狗が命を助けられた様子を語ります。その後大天狗(後シテ)が現れて魔術をつかいます。天から音楽が響き釈迦が姿を現します。そして目の前に釈迦の説法が再現されるのでした。

じつは大天狗が釈迦に扮しているにすぎません。しかし僧正はその荘厳な雰囲気思わず信心を起こし、涙を流して合掌します。すると、突然、天地が震動して帝釈天(ツレ)が出現し、僧をだました天狗を懲らしめます。魔力を失った天狗はふらふらになって洞窟へと逃げ去るのでした。



能 大會